リーディング力向上のためのリスニング指導

安　宅　邦　光*・東　　俊　文**・堀　　登代彦***

An Attempt to Improve the English-Reading Ability for Practical Use.

Kunimitsu ATAKU, Toshifumi HIGASHI and Toyohiko HORI

Abstract

This paper is a report of our attempt in the third-year English classes to improve their ability in English reading. Many Japanese learners are liable to translate English sentences into Japanese. This prevents them from understanding stories smoothly and quickly. We had the students listen to English stories many times. In this case they cannot help grasping the meaning of each sentence from top to tail without translating. If this way of understanding is applied to reading, they will make great progress in reading English stories.

1．はじめに――実用的リーディング力とは

日本人の英語力に関して世間でよく言われるのは，「学校で最低でも6年，また8年から10年学習した人も多いはずなのに，読み書きは出来ても，話す聞くの会話はろくにできない。日本の英語教育はいったいどうなっているのか。」といった類のものである。最近では日本人の英会話力も少しずつ上がってきている気配はあるが，それでも学校で学んだ年数の割には大して話せない聞けない状況は依然として続いているようだ。

だが私たちが今回問題にしたいのは，話す聞くの英会話力ではなく，「読み書きはできても」と世間では言われている英文を読む力（リーディング力）の方である。学校での6～10年の英語学習期間に相応するようなリーディング力を日本人は習得してきただろうか。あるいは学校の英語教育（少なくとも本校の英語教師である私たち）は，それなりのリーディング力を学習者に習得させてきただろうか。それなりのリーディング力とはどの程度のリーディング力なのか，それを厳密に定義するのは難しいが，例えば高等教育を受けた者なら，ある程度の実用的なリーディング力とでも言えば良いだろうか。実用的なリーディング力とは，例えば仕事などで，英語で書かれた新聞や文献，また製品の使用説明書や手紙やパンフレットなどを読んで，その中に書かれてある情報を素早く正確にキャッチするということ。あるいは個人的な楽しみとして，好きな洋楽の曲の歌詞カードを読んで理解したり，好きな分野の英文雑誌などを気軽に読んで楽しめるということ。

英文からの情報収集力を模擬状況的に試すテストとして国際的に広く行われており認知度も高いのが，TOEIC と TOEFL である。これらのテストにはリーディングの問題も多く含まれている。そのテスト結果を受験生の国籍別平均スコアとして算出したデータによれば，日本はリスニング力だけでなくリーディング力においても，世界各国の中でかなり劣っている。言語的には英語に近い文構造や語彙を持ち，文化的にもそのルーツを同じくするヨーロッパの国々だけでなく，他のアジア諸国と比較しても，その成績は決して高いものではない。そういうデータを見せつけられると，日本人は英会話は苦手だが英文を読む力ならまずまずあるという説を，そう簡単に信じるわけにはいかなくなる。

このような実用的リーディング力をつけるためにはどうしたら良いか。もちろん中学高校レベルの基本的な文法や構文の知識は必要である。ある程度の単語力も必要である。だがそれらを知識として知っているだけでは，スピードと正確さをもって，多量の英文を読み進めていくことは困難である。最も重要なことは，ある程度の分量とまとまった内容を持つ，しかも初見の英文を，自分

＊　助教授　一般教科
＊＊　助教授　一般教科
＊＊＊　講　師　一般教科

の力で読み進める経験を数多く積むことである。慣れないうちは，少し立ち止まって英文の構造をゆっくり分析することも必要だが，自分が知りたい必要な情報だけを掬い読みしていく速読の訓練を数多く行うことも，実用的リーディング力を伸ばすには不可欠である。そのようにして自力で英文と格闘した経験がその学習者の血となり肉となって，本物のリーディング力が身についてくる。

さて今述べたことから，平常の教科書を使った英語学習の中で，リーディング力をつけるのに最も重要なのは教科書の予習ということになる。そこでは初見の，まだ内容や訳も未知の英文を，辞書の助けを借りながら文法や構文など既習の知識も総動員して，自分の頭で自分の力で英文を理解していかなければならない。この過程が，血肉化した本物の英文理解力をつけるためには非常に重要であることは疑いない。

ところが学生の実態はどうかというと，低学年ではしっかり予習している者も多いが，学年が上がるにつれて予習して授業に臨む者が徐々にあるいは急激に減っていく。よくあるのは，次のようなパターンだ。授業中に教師あるいは他の学生が訳した訳文を書き取ったり，後で教科書ガイドや友人の日本文訳を写し取る。そして重要な単語や熟語，またその課の重要文法事項や練習問題の答えなどを，試験前に必死に頭の中に詰め込む。そのようなインスタント勉強法でそれなりの点数を取ってしまった場合（試験の作り方によっては，そういうことも十分ありうるのだが），自分は結構英語が出来る，英文読解力があると思ってしまうことにもなりかねない。

教科書をしっかり予習して授業に臨むことは大切ではあるが，これだけでは実用的リーディング力をつけるために十分とは言えない。なぜなら，接する英文の絶対量があまりにも少ないからである。細かい文法や語法の説明も聞きながら1時間の授業が終わってみて，学生が実際に読んだ英文の分量など，例えば私たちが普段の生活で1時間の間に本や新聞や雑誌を通して読む分量の百分の一にも満たないかも知れない。それが実は，6年から10年もの間学校で英語を学んだはずなのに，日本人のリーディング力が他国の人々のそれに比べて劣っている大きな理由のひとつでもあろう。

2．方法論———文法訳読式からの脱却

2．1　「前」から「後ろ」へ読む

日本人が英文を読む際によく用いられる方法が文法訳読式である。これは，それまで日本人が漢文を読み下す時に用いていた方法を英文読解にも適用したもので，英語が本格的に日本に入って来た江戸時代末期から明治，大正，昭和を経て平成の現在に至っても，今だに根強く多くの日本人の頭の中に浸透している。

この文法訳読式で英文を読む時には，まず英文の構造を文法的に分析する。特にワンセンテンスが長くなればなるほどその効果を発揮する。主語や動詞はどれか，目的語や補語や修飾語はどれかを探し出す。語や句や節の相互の修飾関係も確認する。省略や倒置や挿入や強調などがあればもちろんチェックする。あらゆる各種文法用語を駆使して文を分析・解体するのだ。そのようにしてバラされた英文を，今度はジグゾーパズルを組み立てるように，日本語の文に組み直していくのである。

このような文法訳読式による英文理解は，外国語としての英語を学ぶ学習者にとっては，ある程度必要なプロセスであると長い間言われてきた。なぜなら，英語を母語とする人たちは幼時から日々多量の，しかも文字よりも音声という形での英語に接しているので，文法を意識せずとも英文の意味理解が行えるようになっている。英文の構造を無意識のうちにとらえる装置が頭の中にすでに出来上がっている。しかし英語を母語としない学習者では，そのような装置が頭の中にまだ出来ていないし，そう簡単にできるものでもない。従って，英文の構造を無意識のうちに感覚的にとらえることは難しく，文法を意識化しなければならない。それが文法訳読式で行わざるをえない理由であろう。

だが，英語を母語とする者が英文を読む時，前から後ろへと文章の流れに従ってその文の意味内容を理解していく。日本人が日本語で書かれた文を読む時も同様である。まさか後ろから前へ戻って返り読みしながら文の意味内容を理解していく者などいない。（英語を母語とする者が日本語の文を読む時は，やはり返り読みをしているのだろうか。）各言語にはその言語に特有の文法に基づく語順がある。その語順による文章の流れに乗った時が，最もその言語の文章を理解しやすいはずである。英文を返り読みするということは，英語

の文章のスムーズな流れに逆らって余分なエネルギーを消耗することであるし，何よりも，その文章で表現された思考なり感情なり情報なりを十分には享受できないということではないだろうか。

2．2 「聞く」ように「読む」

私たちが文字で書かれた文章を読む時，普通は声を出さず黙読する。しかしこの黙読行為の間，実際には声は出ていなくても，その文章の音声を頭の中かどこかで響かせながら読み進め，そしてそれと同時に意味内容も理解していることが多いのではないだろうか。

ただ日本語の場合，特に漢字は，目で見た視覚的イメージだけから，音声にならない音声すら介さずにその意味するものを想起できそうである。それに対して，英語のアルファベット文字は本来音標文字である。そのアルファベット文字によって書かれた文章を黙読して内容理解する時には，日本語の文章を読むとき以上に，音声にならない音声の存在が大きく関わっていそうだと考えられる。つまり英語を母語とする人たちが英語の文章を読む時，彼らはその文字の視覚的イメージからよりも，その文字の持つ音声的な響きから，意味内容をとらえる傾向が強いのではないか。話された言葉は当然音声として聞き取って理解するが，文字で書かれた文章も，それに近いような経路で理解するのではないか。

今回の私たちの授業実践におけるキーワードとなった，この「聞く」ように「読む」という表現には，実は2通りの意図が含まれている。

音声としての英文は，前から後ろへその語順通りに現れる。いったん現れた音声は次の瞬間即座に消滅して，次の音声へと移っていく。従ってリスニングをする時は，前から後ろへ語順通りにたどって内容理解をしていくしかない。返り読み風に理解しようと思っても，文章を読んで理解する時なら前の方に文字として残っていたはずのものが，すでに消えてしまっている。（超能力を持った人間なら残響として聞こえるかも知れないが。）このリスニングでの英文認知過程を，リーディングにも適用させるというのが第1の意図である。

「聞く」ように「読む」という表現の第2の意図は，英語の音声を聞いて，日本語を介さずに直接その英語音声の表す意味内容をとらえさせることである。つまり英語を英語のままで理解させるということである。英語の［buk］という音を聞いて，日本語の「本」という文字や〈ほん〉という音を頭に思い浮かべることなしに，bookというモノをイメージすることは，私たち日本人にとって難しいことではないだろう。そのような意味理解の仕方を，単語からフレーズへ，さらにセンテンスやパラグラフへ拡張しようという意図である。

ただし，後者の意図を実現させることは前者よりもはるかに難しいと私たちもよく自覚していたので，授業時に学生にそこまで要求することはほとんどなかった。学生がタスクに取り組む時，そのような認知方法が少しずつでも彼らの頭の中で，彼ら自身も気がつかないうちに行われるようになれば良いという期待感だけ持って。

3．使用教材について

3．1 使用教材

①シドニー・シェルダン作の12の連作短編集「百万ドルの宝くじ」のテキストとその音声テープ（CD）。

②英文雑誌 MINI WORLD（ミニ・ワールド）とその朗読テープ。

3．2 使用教材の内容

①について。現代アメリカの人気ベストセラー作家シドニー・シェルダンが書いたこの物語は，宝くじで百万ドルが当たったためにその後の人生が様々に変わっていく人間の様子を描いた，それぞれが独立した12の短編小説から成る。どのストーリーも話の展開が非常にスリリングで，読者をいつの間にか物語の中に引き込んでしまう迫力を備え，最後には必ずどんでん返しがある。一話が約17分の，テキスト付随の音声テープでは，各登場人物をそれぞれ異なった声優たちが表情豊かに演じ，しかも効果音が各所にふんだんに散りばめられている。シドニー・シェルダンは日本人読者のために，この物語を平易な英文で書いている。今回はこの内の3編を使用。

②について。10年程前から隔月刊で発行されている英文雑誌。東京にあるミニワールド社が発行しており，世界中の最新の様々な話題（海外事情，社会問題，環境問題，教育，科学，文化，芸能，スポーツなど多岐にわたる）が各1～3ページ程の英文記事にされている。この雑誌が他の一般の英文雑誌と異なる大きな特徴は，すべての記事が基本2000語の範囲内で書かれていることである。

従って日本人の英語学習者にとって，内容的にも語彙的にも非常に取り組みやすい。さらに，記事が朗読されたカセットテープも毎号発売されている。今回はこの内の3本の記事を使用。

4．授業方法

4．1　授業の狙い

平成10年度第3学年全5クラスの英語C（4単位）の授業において，3名の教官により実施された。本校の3年生の英語Cの授業は従来，英語Ⅱ（英文読解を中心とする総合的な英語）の教科書を使って行われてきており，本年度も基本的にはそれを踏襲して行っているが，英語の授業に対する新鮮さや好奇心が若干薄れがちな3年生で，毎週4時間の英語授業のほとんどすべてを教科書だけで行うことは，教育効果の面からもあまり好ましいことではない。だが，英語の単一科目が3年生で週4時間もあるということを逆にプラスに捉え，様々な形態の英語授業の試みができるチャンスだと考えることもできる。そのようなわけで今年度はまず，1．のところで述べたような実用的なリーディング力を伸ばすための英語授業を試みた。

4．2　全体の流れ

【1】英文の聞き取り理解の練習（テスト）
※①の教材を使用
第1回　"Meet My Wife"「これが私の妻です」
（5月中旬実施）
夏休みの課題　"The Red Jacket"「赤い上着」
（9月上旬テスト実施）
第2回　"The Bore"「いやな人」
（11月上旬実施）

【2】定期試験でのリーディング・テスト
※②の教材を使用
前期中間試験「風力発電の話」
前期期末試験「世界の奇妙な法律の話」

【3】フレーズ・リーディングの練習
※②の教材を使用
「レオナルド・ディカプリオ」
（10月中旬実施）

4．3　授業の詳細

【1】英文の聞き取り理解の練習（テスト）

これが今回の一連の試みの中でも中心的なものとなっている。（210ページ参照）

まず，2．のところで述べたような視点からリーディング力を伸ばすために，3．の①の英語教材を使って英文の聞き取り理解を行わせた。普段の英語の授業では，文字で書かれた英文を目で読みながら内容理解をしているが，今回の試みでは音声として流れてくる英文を耳で聞いて内容理解をするわけである。もちろんその間学生は，書かれた英文を見ることはできない。その際ただ漠然と聞いているだけでは，ワンストーリー約17分もあるので，集中力が続かなかったり，ひょっとして眠くなってしまう学生もいるかもしれない。また教師側としては，学生がどの程度その物語の内容を理解できたかの確認をしたい。それで私たちが独自に作ったテスト形式のワークシート（難しい単語の意味をヒントとして書き添える）を配布して，その設問に答える形で進めた。

設問数は25題。すべて日本語の質問に日本語で答える形式。物語を聞かせる回数は2回。1回目は物語全部を約17分かけて一気に聞かせる。この時はまだ設問の答えは記入させず，単語のヒントを見ながら物語全体の流れをつかませる。2回目はパート（CDトラック）ごとにポーズを入れて，設問の答えを記入する時間を与えながら行う。それによって細部の理解も深められるはず。そして最後に，全体の要約を10分で書かせて完了する。（答えはすべて日本語で記入する。）以上すべてに要した時間は，約90分。各クラスとも2時間続きの授業の日を利用して行った。またクラス間での問題漏れを最小限にするために，同日または近接する2日間で実施。そして，第1回（5月），第2回（11月）の2回のテストは出来る限り条件を揃えて行った。

「赤い上着」に関しては，夏休みの課題という形で書き取り式のワークシートを与えて聞き取りの練習をさせ，夏休み明けの数回目の授業時に（これも実施時間を出来るだけ近接させ）その復習テストという形で聞き取りテストを行った。

【2】定期試験でのリーディング・テスト

前期の2回の定期試験の中で実施。試験時間を従来の50分から70分へと延長。その内の25分を使い，100点満点中の30点をこのテストに配分。英和辞典持ち込みを可とした。（始めの45分は，3

名の各教官がそれぞれ独自に作成した教科書を中心とする範囲の問題を行い，時間が来たらそれを回収し，このテストを配布する。この時学生は英和辞典を机上に出す。）

出典は，４．２で紹介した英文雑誌ＭＩＮＩ ＷＯＲＬＤ。この試験の内容は211ページ上段に掲げておく。このテストは音声を全く介さずに，純粋な英文読解問題として出題した。

問題形式は，話のポイントをしっかり押さえて理解できたかどうか，英文全体の要旨を把握できたかどうかを試す設問に絞り，語彙や細かい語法文法自体を問う設問は避けた。よくある下線部和訳も最低限しか出さなかった。それは，きちんとした日本語に訳さなければ英文を理解した気にならないという悪い癖を改め，英文を語順のまま前から後ろへフレーズごとに理解する癖を付けさせたかったからである。

このテストを実施した大きな理由として，１．で述べたように，初見の英文に取り組む機会を学生に与えたかったということがあげられる。しかも定期試験という解答時間に制限があり，成績評価にも大きく関わってくる真剣勝負の場で。これによって，英文読解の真の実力が各自再認識できよう。そしてそれまでの英語学習法が本当に良かったかどうか，改めるとしたら，どのようにすれば良いのかを考える機会も与えられる。

教科書範囲の試験問題では，既習事項の暗記という方向に傾きがちで，考える力を十分に試すことが難しい。大学受験を目指す高校生ならば，模擬試験で初見の英文に当たって苦戦し，自分の英文読解力を自覚できるが，高専生にはそういった経験を積む機会もあまりない。そういう意味でもこういう形式のテストを定期試験に入れることは非常に意味のあることだと思われる。

【３】フレーズ・リーディングの練習

同じく英文雑誌ＭＩＮＩ ＷＯＲＬＤよりレオナルド・ディカプリオの記事の読解練習を，平常の授業５時間をかけて行った。この雑誌の記事を授業時に教材として使うのは，今年度の３年生英語Ｃの授業では初めてである。ディカプリオの記事を選んだのは，彼が現在世界で１，２を争う若手人気俳優であり，最近日本でも上映された「タイタニック」の影響もあって，多くの学生になじみがあるからだ。

実際の授業は以下のように進めた。まず始めにテキストを前半と後半に分け，いずれにも内容理解を促すためのワークシートを配布した。このワークシートには【２】のテストと同形式の設問が用意されている。学生は設問の答えを探しながら英文を読み進める。あまり細部にこだわらずに，文章の流れや要点をつかむのを目標とした。

テキスト前半部分（３時間配当）では，初めにフレーズ・リーディングの紹介説明をした。フレーズ・リーディングとは，ひとつの文をまとまった意味を持ついくつかの部分（フレーズ）に分けながら，フレーズごとに前から後ろへ意味をとっていく読み方である。返り読みをしないぶん，慣れればスピーディーに内容理解できる。

次に，フレーズ・リーディングを強く意識させるための補助プリント（フレーズごとに行替えして英文全体を柱状にしたもの。211ページ下段参照）も配布し，ＭＩＮＩ ＷＯＲＬＤの朗読テープを聞きながらフレーズごとに意味をとらせた。その後，時間を与えてその補助プリントを読ませ，ワークシートに解答を記入させた。

テキスト後半部分（２時間配当）は補助プリントなし。一定時間内に学生は，普通に書かれたテキスト文をフレーズ・リーディングしながらワークシートに解答を書き込む。

《英文の聞き取り理解》 第3回
" THE BORE" 『いやな人』 by SIDNEY SHELDON "The Million Dollar Lottery"

金持ちになるのは万人の夢だ。人々は金があれば幸せになれると心から信じている。しかし本当にそうだろうか？　ジドニー・シェルダンの１２の連作短編小説「百万ドルの宝くじ」は、思いもかけず金持ちになった１２人の人が果してどうなったか、という話だ。ある人は幸せになり、ある人は不幸になった。またある人は自殺をし、ある人は殺人を企てた……。

・１回目⇨全体を通して聞く。　各登場人物の性格や関係に注意しながら、物語全体の大まかな流れと結末を理解する。
・２回目⇨パートごとに聞く。　右側の〈各パート別のＱ＆Ａ〉の答えを記入しながら、細部の理解を深める。

WORDS HINTS（下線部は内容メモ欄）

【Track 1】boring　disgust　refuse
いやな　うんざりさせる　拒否する

【Track 2】bearable　separate　sneak up　creep　dawn　starve
我慢できる　別々の　こっそり近づく　忍び込む　夜明け　飢える

【Track 3】pitiful　celebration　lottery　pound　fabulous
情けないほどの　お祝い　宝くじ　どきどきする　すごい
furniture　shabby　stare　invest
家具　ぼろい　見つめる　投資する

【Track 4】stand
がまんする

＿＿科＿＿年＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿

★物語全体の要約

◆〈各パート別のＱ＆Ａ〉

Ｔ１－１．シルビアが夫のリチャードを嫌った点を（お金の事以外で）２つ書きなさい。

２．リチャードの経済力、金銭感覚はどのようであったか？

Ｔ２－３．トニーとシルビアの関係は？（具体例もあげる）

４．トニーとシルビアはそれぞれ今後の２人の関係をどう希望・予測しているか？

Ｔ３－５．リチャードの知らせを聞いてシルビアは何ができると言ったか？（３つ書く）

６．それに対してリチャードは、どう答えたか？

Ｔ４－７．シルビアの今後への希望と、それに対するリチャードの考えは？

８．そのようなリチャードの反応に対して、シルビアはある時何を思ったか？

CHAPTER

NINE

THE BORE

Richard Taylor was the most boring man in the world.[track 1] Sylvia, his wife, would sit across from him at dinner and watch him noisily gulp down his food. He disgusted her.

When he was finished eating—whether she was finished or not—he would stand up, and say, "Let's watch television. The baseball game is on." And she would have to go up and watch baseball with him. She hated baseball. She also hated Richard.

Richard had a good job and plently of money, but he refused to spend anything on his wife.

"I need a new coat," she would say.

"You've only had your coat for five years. It's good for another five years."

"I need a new dress."

"You have enough dresses. Your closet is full of them."

Richard was miserly, and wouldn't spend any money on her at all.

The only thing that made Sylvia's life bearable was the[track 2] fact that she had a handsome young lover named Tony. When Sylvia's husband went to work, Sylvia spent every possible moment with Tony. Richard and Sylvia had separate bedrooms. Richard was a sound sleeper, and very often Tony would sneak up the trellis to the balcony door outside Sylvia's bedroom. He would quietly creep into her bedroom, and they would make love. Tony would leave before dawn.

Unfortunately, Tony had no money. He would say to Sylvia, "I love you. Why don't you divorce Richard and marry me?"

And Sylvia would put her arms around him, and say, "I love you, too, darling, but if I divorce Richard, he would never give me a cent, and you and I would starve together. No. I have no choice but to stay with Richard."

And then the unexpected happened...

Richard came home from work one day, carrying a[track 3] pitiful little bouquet of flowers. He never bought Sylvia

Eye on Crime

Quick, Hide That Chewing Gum!

by Richard Humphries

Everyone knows Singapore has some very strange laws, but all over the world there are laws that are stranger than strange.

There is a phrase in American English ("There ought to be a law") that is often used when people see an activity that they do not like. It means there should be a law against that activity.

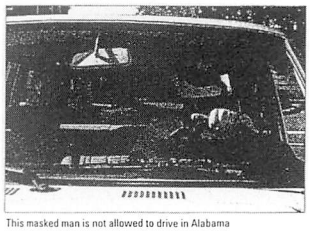
Unfortunately, too many government officials get serious about these things and then pass a lot of really strange laws.

For example, do you have a pet lion? Have you and your pet lion ever wanted to go see a movie together? Well, if you live in Baltimore, Maryland, you had better not because it's illegal to take a lion to a movie theater there.

Does your dog have a bad habit? Does it smoke cigars? Well, you should not be seen offering your dog a cigar in Zion, Illinois, or you will be breaking the law there.

Thinking about getting in your car and driving across the state of Alabama? That could be a wonderful trip, but you should know in advance that it's against the law, and probably not a good idea, to be blindfolded (see photo) while you drive there.

Many of these laws are old and were probably passed in response to someone who once actually tried these crazy things. However, strange laws are still being made. For example, under Section 402d of a 1981 California State Law, it is against the law to mail someone razor blades unless that person asks you to.



This masked man is not allowed to drive in Alabama

America is not the only country with curious laws. France and the Canadian province of Quebec have language laws that are mostly directed against English loan words. Shops there are not supposed to advertise and sell "les computers" or "les hot dogs." In Quebec, that province's Bill 101 says all signs must be in French only.

Indonesia does not allow the import of material with Chinese writing, and Libya once banned "unclean thoughts." Still, for consistent attempts at controlling society through strange laws, Singapore is number one.

Did you forget to flush that toilet? Oops, you will have to pay a fine of S$500 (¥37,280), and don't even think about bringing a fresh durian (a tropical fruit known for its strong smell) on the subway as that's definitely not allowed. Furthermore, as of January 1991, chewing gum is now illegal and smuggling (secretly bringing) it in can get you a year in jail and a fine of S$6,200 (¥462,270).

Durian does not travel well in Singapore

While many of these laws mentioned may sound a little crazy, it's probably not a good idea to go out and break them. Leave the gum at home when you travel to Singapore, and just tell your lion you'll bring home a video tonight when you're in Baltimore.

◆READING TEST　　___科 3年___番 氏名_____

左の英文に関して、次の問いに答えなさい。（解答はすべて日本語で書くこと）

Q１ 下線部③を日本文にしなさい。

Q２ 下線部②の具体例を、アメリカの次の４つの都市（州）について書きなさい。

(1)メリーランド州ボルチモア (Baltimore, Maryland)

(2)イリノイ州ザイオン (Zion, Illinois)

(3)アラバマ州 (Alabama)

(4)カリフォルニア州 (California)

Q３ 下線部①の具体例（durianという果物に関するものを除く）２つと、それぞれに与えられる罰を書きなさい。

(1)_____

罰_____

(2)_____

罰_____

Q４ 下線部①②への対応策として、例えばシンガポールとボルチモアではどうすれば良いと、筆者は冗談混じりに述べていますか。

(1)シンガポール

(2)ボルチモア

《配点》計３０点

Q１⇨４点、Q２⇨３点×４＝１２点、Q３⇨４点×２＝８点、Q４⇨３点×２＝６点

(1) Last November,
Leonardo DiCaprio came to Japan
for the first time
in three years
to promote his latest movie, Titanic.
That was
when "Leo Fever" hit Japan!
It was wild
from the moment
he landed in Japan.
More than 150 screaming fans
met him
at Narita Airport.
At the Orchard Hall Theater in Tokyo
about 2,000 young women,
including some crazy fans
who had camped out
for three days,
waited for the star to arrive
for the premiere of Titanic.

(2) To avoid a panic,
DiCaprio had to sneak
in the back door
of the theater.
The press were also eager
to see him.
The press conference
at which DiCaprio and director James Cameron
introduced the movie
was packed
with about 600 journalists,
the largest number ever
for any film press conference.

(3) Outside the room
before the press conference,
TV reporters interviewed fans
who were waiting desperately
in the hopes
of glimpsing their prince.

(4) The reaction
to his visit
was even bigger
than DiCaprio himself had imagined.
"It's definitely overwhelming,"
he says.
"I came to Japan
three years ago
after I did my second film
[reffering to What's Eating Gilbert Grape
— which is actually his third film].
The fan aspect was
definitely not to the degree
that it is now.
So it definitely take some
getting used to."

(5) He thinks
that it's "a terrific thing,"
but knows also
that with fame comes added pressure.
"I realize
that it's a different world
that I'm entering now
and it takes a lot more responsibility
in life,"
says DiCaprio
with a serious look on his face.

Leonardo DiCaprio を読む　　氏名_____

(1)①昨年の１１月、彼は何をしに日本へ来たか？

②彼が成田空港へ着いた時のファンの様子は？

③オーチャード・ホール での様子は？ 熱狂的ファンのしたことは？ ここで何が行われたか？

(2)④オーチャード・ホール でのこの状況に、彼はどう対処したか？

⑤記者会見の様子は？

(3)⑥テレビ・レポーターがインタビューしたファンはどんな状況だったか？

(4)⑦今回の来日時の周囲の様子は、彼にとってどのようなものだったか？

⑧前回の来日時の彼の状況は？ その時の周囲の反応はどうであったか？

(5)⑨今回の来日時の周囲の様子を見て、彼はどう思ったか？

★アンケートに答えて下さい。

A．あなたはレオナルド・ディカプリオのファンですか？

１．はい　２．少し　３．いいえ

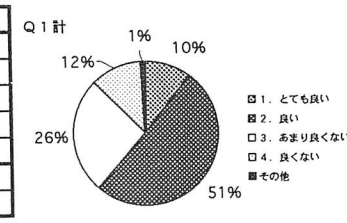
B．あなたは映画「タイタニック」を見ましたか？

１．はい　２．見てないが近日発売のビデオで見たい　３．いいえ

3年英語C授業アンケート集計表
【シドニー・シェルダン作「百万ドルの宝くじ」聞き取り理解】

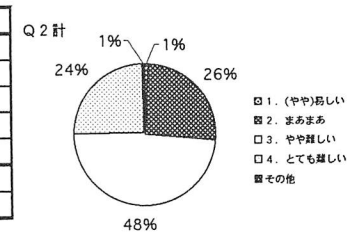
Q1　このような方法での英語学習はどうでしたか？

学　科	各学科人数	1．とても良い	2．良い	3．あまり良くない	4．良くない	その他
A	40	7	15	9	9	0
B	41	3	16	14	7	1
C	34	3	27	4	0	0
D	40	6	16	14	3	1
E	36	1	23	9	3	0
計	191	20	97	50	22	2
割　合		10.5%	50.8%	26.2%	11.5%	1.0%



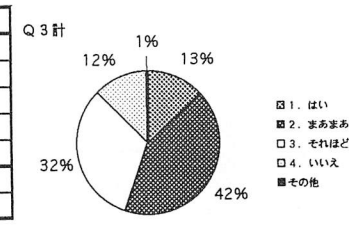
Q2　この英文ストーリーの、聞いて理解する教材としての難易度は？

学　科	各学科人数	1．(やや)易しい	2．まあまあ	3．やや難しい	4．とても難しい	その他
A	40	0	10	17	13	0
B	41	0	1	28	11	1
C	34	1	14	17	2	0
D	40	1	16	12	11	0
E	36	0	8	19	9	0
計	191	2	49	93	46	1
割　合		1.0%	25.7%	48.7%	24.1%	0.5%



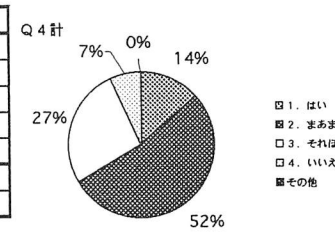
Q3　3回やってみて、音声を聞いてストーリーを理解する力が向上したと思いますか？

学　科	各学科人数	1．はい	2．まあまあ	3．それほど	4．いいえ	その他
A	40	5	15	17	3	0
B	41	3	17	11	9	1
C	34	10	18	6	0	0
D	40	4	14	17	5	0
E	36	3	17	10	6	0
計	191	25	81	61	23	1
割　合		13.1%	42.4%	31.9%	12.0%	0.5%



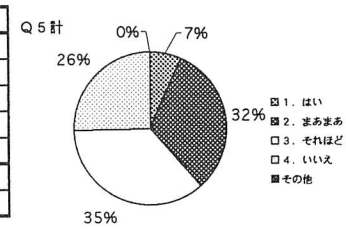
Q4　1＆3回目の、2度聞いて設問に答える形式は、ストーリーの聞き取り理解の方法として、良かったですか？

学　科	各学科人数	1．はい	2．まあまあ	3．それほど	4．いいえ	その他
A	40	6	18	13	3	0
B	41	8	19	8	6	0
C	34	6	22	6	0	0
D	40	4	19	13	4	0
E	36	2	23	11	0	0
計	191	26	101	51	13	0
割　合		13.6%	52.9%	26.7%	6.8%	0.0%



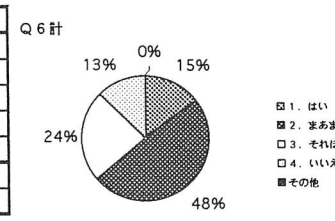
Q5　夏休みの宿題（2回目のストーリー）に、興味を持って取り組めましたか？

学　科	各学科人数	1．はい	2．まあまあ	3．それほど	4．いいえ	その他
A	40	3	10	14	13	0
B	41	2	5	19	15	0
C	34	6	16	8	4	0
D	40	1	15	15	9	0
E	36	1	15	12	8	0
計	191	13	61	68	49	0
割　合		6.8%	31.9%	35.6%	25.7%	0.0%



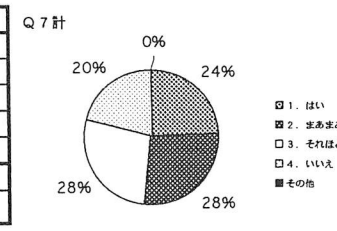
Q6　3回のストーリーの内容は面白かったですか？

学　科	各学科人数	1．はい	2．まあまあ	3．それほど	4．いいえ	その他
A	40	5	14	12	9	0
B	41	5	19	10	7	0
C	34	9	18	6	1	0
D	40	6	22	6	6	0
E	36	3	21	11	1	0
計	191	28	94	45	24	0
割　合		14.7%	49.2%	23.6%	12.6%	0.0%



Q7　このような方法での英語の授業を今後も行いたいですか？

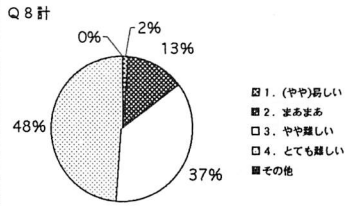
学　科	各学科人数	1．はい	2．まあまあ	3．それほど	4．いいえ	その他
A	40	11	9	11	9	0
B	41	7	7	11	16	0
C	34	13	15	5	1	0
D	40	8	12	11	9	0
E	36	7	10	15	4	0
計	191	46	53	53	39	0
割　合		24.1%	27.7%	27.7%	20.4%	0.0%



3年英語C授業アンケート集計表
【英文雑誌記事を利用したリーディングについて】

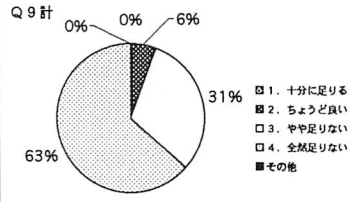
Q8　英文の難易度はどうでしたか？

学　科	各学科人数	1．(やや)易しい	2．まあまあ	3．やや難しい	4．とても難しい	その他
A	40	0	6	15	19	0
B	41	2	3	11	25	0
C	34	0	8	16	10	0
D	40	1	7	16	16	0
E	36	0	1	12	23	0
計	191	3	25	70	93	0
割　合		1.6%	13.1%	36.6%	48.7%	0.0%



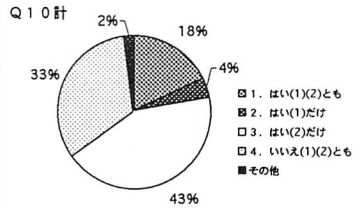
Q9　25分弱の解答時間についてはどうですか？

学　科	各学科人数	1．十分に足りる	2．ちょうど良い	3．やや足りない	4．全然足りない	その他
A	40	0	7	12	21	0
B	41	0	1	11	29	0
C	34	0	1	17	16	0
D	40	0	2	14	24	0
E	36	0	0	5	31	0
計	191	0	11	59	121	0
割　合		0.0%	5.8%	30.9%	63.4%	0.0%



Q10　英文の内容（(1)風力発電、(2)世界の奇妙な法律）は興味を持てるものでしたか？

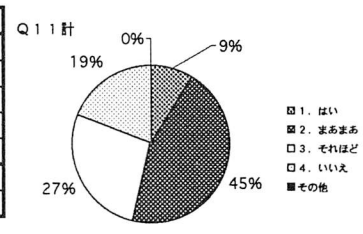
学　科	各学科人数	1．はい(1)(2)とも	2．はい(1)だけ	3．はい(2)だけ	4．いいえ(1)(2)とも	その他
A	40	13	2	9	16	0
B	41	7	3	20	9	2
C	34	5	1	21	7	0
D	40	6	1	19	12	2
E	36	3	1	13	19	0
計	191	34	8	82	63	4
割　合		17.8%	4.2%	42.9%	33.0%	2.1%



【レオナルド・ディカプリオの英文雑誌記事の読解授業】

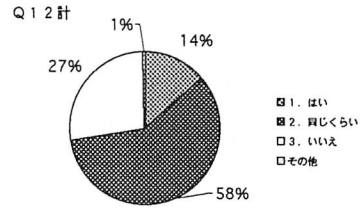
Q11　興味を持って学習できましたか？

学　科	各学科人数	1．はい	2．まあまあ	3．それほど	4．いいえ	その他
A	40	2	14	13	11	0
B	41	4	18	8	11	0
C	34	4	13	12	5	0
D	40	3	18	12	7	0
E	36	4	23	7	2	0
計	191	17	86	52	36	0
割　合		8.9%	45.0%	27.2%	18.8%	0.0%



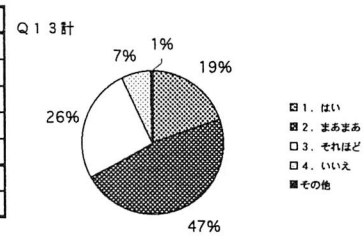
Q12　この記事の英文は、教科書の英文より易しかったですか？

学　科	各学科人数	1．はい	2．同じくらい	3．いいえ	その他
A	40	5	21	14	0
B	41	4	30	6	1
C	34	5	20	9	0
D	40	5	20	15	0
E	36	7	21	8	0
計	191	26	112	52	1
割　合		13.6%	58.6%	27.2%	0.5%



Q13　教科書の時とは少々違う方法で読解を進めましたが、その方法は良かったですか？

学　科	各学科人数	1．はい	2．まあまあ	3．それほど	4．いいえ	その他
A	40	7	15	13	5	0
B	41	13	17	9	2	0
C	34	9	19	5	1	0
D	40	1	15	18	5	1
E	36	7	25	4	0	0
計	191	37	91	49	13	1
割　合		19.4%	47.6%	25.7%	6.8%	0.5%



3年英語C5学科得点データ

【1】シドニー・シェルダンの聞き取り理解

設問平均点（50点満点）

学　科	第1回	第2回	2回平均
A	11.1	18.3	14.7
B	7.8	13.1	10.5
C	16.9	32.8	24.9
D	13.7	22.9	18.3
E	9.5	24.6	17.1
平均点	11.8	22.3	17.1

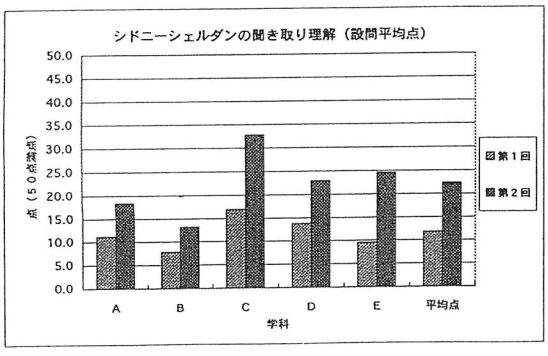
要約平均点（4点満点）

学　科	第1回	第2回	2回平均
A	1.7	3.2	2.5
B	1.4	1.7	1.6
C	2.8	3.7	3.3
D	1.7	3.3	2.5
E	2.4	3.3	2.9
平均点	2.0	3.0	2.5

（第1回目：5月実施／第2回目：11月実施）

夏休み課題のテスト（9月実施）
平均点（50点満点）

学　科	平均
A	24.3
B	21.6
C	34.3
D	29.5
E	37.5
平均点	29.4

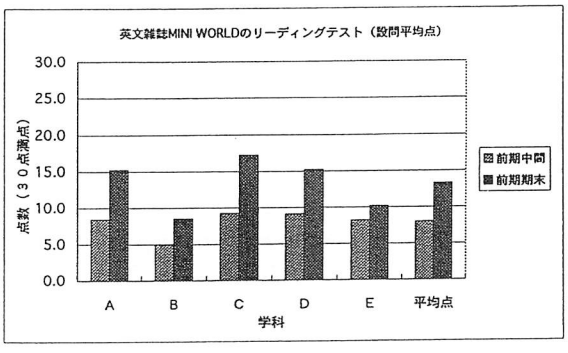


【2】英文雑誌MINI WORLDリーディングテスト

点数（30点満点）

学　科	前期中間	前期期末	2回平均
A	8.4	15.2	11.8
B	5.0	8.5	6.8
C	9.2	17.2	13.2
D	9.1	15.2	12.2
E	8.2	10.2	9.2
平均点	8.0	13.3	10.6

（前期中間試験：6月実施）
（後期期末試験：9月実施）



5．テスト結果

5．1　テスト方法について

テスト方法については，4．3を参照されたいが，若干の補足説明をしておく。

上の【1】に要約平均点（4点満点）とあるが，要約の評価法は，ほとんど内容を理解していると判断できる者に最高の4点，だいたい理解している者に3点，あまり理解していない者に2点，ほとんど理解していない者には最低点の1点を与える。従って要約平均点は，最高4点から最低1点の範囲内のスコアとして記されている。

また夏休みの課題とは，物語のスクリプト中に適宜作ったブランクに，聞き取った英語の語句を書き込むもの。夏休み明けにその復習テストを実施した。

5．2　テスト結果の分析

上のテスト結果を，前頁のアンケート結果も参考にしながら，分析・考察してみたい。

始めに言えるのは，5クラスとも【1】【2】のどちらのテストでも，第1回より第2回の方が得点が上がっていることである。その理由として特に考えられるのは，第2回の時にはこのような聞き取り理解の（テスト）方法に，様々な意味で慣れてきたということだろう。

【1】のテストで言えば，17分間ぶっ通しで集中して英文を聞く経験は，第1回の時が生まれて初めてという学生も多かったにちがいない。実際この時は，途中でぼうっとしたり眠りそうになる学生も見受けられた。それが2回目の時は，集中力も継続して意欲的に取り組む学生が増えた。また，ストーリー自体が同じ作家の同じ連作短編集からであり，設問形式が2回ともほとんど同じであったことも，2回目の得点アップにつながった理由のひとつと考えられる。

また，英語を音声として聞いて理解するためのいわば「認知装置」の形成が，彼らの頭の中で少しずつ起こっているとも考えられる。〈17分×4本＋夏休の聴き込み〉でどれほどの効果があったかを量的に計測するのは，もちろん不可能だろう。だが，少なくとも必死に耳を傾けて何とか理解しようと努めた学生ならば，英語の音の質やスピード，リズムやイントネーションにいくらかでも馴染んできたはずだ。日本語に逐一変換せずとも，英文の語順通りに英文の流れに乗って内容理解す

るように，刺激を受容する頭の中の回路がいくらかでも変化増強しているとでも言ったら良いだろうか。

ひとつ言っておかなければならないのは，当然のことだが，２回のテストの比較に妥当性を持たせるために【１】【２】とも解答時間，問題量，英文の難易度，設問形式，採点基準などを可能な限り同じ条件にした。

ただし【２】では２回のテストのトピック分野の違いが，学生の英文の内容に対する興味の差としてアンケートのＱ10にも現れている。２回目のテストの得点アップが，実際に初見の英文を読みこなす力がついたからなのか，興味の持てる話だから頭もよく働いたのか。その問いに確信を持って答えるのは難しいが，両方だと考えるのがやはり最も妥当なところであろう。１回目と２回目のテストの順番を逆にしてみたり，２回とも同じ分野から出題して条件をより近くすれば，もう少し正確な理由がわかるだろう。

初見の英文を読みこなす力がついてきたと考えるとして，その理由が，【１】をすでに２回（第１回テストと夏休みの課題）経験した後なので，英文を「聞くように読む」力が実際についたからなのか，あるいは少なくともその前の段階の「前から後ろへ読む」力だけはついたからなのか。はたまた，相変わらず返り読みをしているが，それでも読む力がついたのか。この点は，はっきりとさせられなかった。アンケートの項目に入れて，学生が自覚できる範囲内でもいいから，読み方に変化があったかどうかを調査すべきだったかもしれない。ただ，Ｑ13の質問から多少それについて推測できる。全体の２／３に当たる６７％の学生が，４．３【３】で触れたフレーズ・リーディングを（まあまあ）良かったと考えている。良かったということは，少なくとも「前から後ろへ読む」読み方をある程度理解し，しかもそれを自分のやり方として受け入れる気持ちがあると解釈できよう。また，すでにこの方法で英文読解をしている者もおそらくいるに違いない。

６．アンケート結果

今回の授業に関するアンケート調査では，表と円グラフにして掲げたＱ１～Ｑ13の質問以外に，自由記入形式で【１】【２】【３】の３つの試みについての感想や意見も書かせた。ここでは，それぞれの冒頭にその結果を記してから，各実践についての分析・考察を行いたい。（２名以下の項目は割愛，回答者数は５クラスで合計191名）

なおこの自由記入形式の記述式アンケートに関しては，各項目の事項について実際はそう思っていても記入し忘れたということもあり得るので，ここに現れた人数は最低限の数だと解釈した方が実態に即しているだろう。

６．１　シドニー・シェルダンの短編小説による英文の聞き取り理解

《良かった点》

51名　リスニング力がついた
19名　教科書を使うより楽しく興味が持てる
16名　物語のストーリーが面白かった
10名　今までにない授業方法が新鮮だった
９名　英語を集中的に長時間聞けた
８名　教科書を使うより英語力がつく
７名　聞き取れるとうれしくなる
５名　英文を語順通り理解できるようになった
５名　本物の英語に触れた気がする
５名　リスニングは得意なので点数を稼げる
４名　夏休み課題は何度でもテープ聞けて良い
４名　今後も継続してやってほしい
４名　英語を聞こうとする気になってきた
３名　予習しなくていいので楽だ

《良くなかった点・難しかった点》

32名　話すスピードが速くてついていけない
26名　とにかく全体的に難しい
15名　物語が長くて，聞いていて疲れる
　（もっと短い物語でやってほしい）
14名　知らない単語が多くて難しい
13名　眠くなる
11名　２度しか聞けず，あまり理解できない
８名　設問に答えるのが難しい
８名　細かい部分がよく理解できない
７名　こういう形態の授業はいやだ
６名　物語のストーリーが面白くない
４名　聞いて即座に内容を理解できない
３名　設問の解答を書く時間が短い
３名　テスト形式で成績に加えるのはいやだ

この実践を行った理由が，「前から後ろへ読める」ようにすること，また「聞くように読める」ための第１段階を行うことなので，聞き取って理解するリスニング力が多少とも身につけば，実施した成果はあったと判断できる。アンケート結果

を見ると，Ｑ３で55.5%の者が，音声を聞いてストーリーを理解する力が向上したと答えている。さらに記述式アンケートでは，51名，全体の約１／４の者が,良かった点としてこれを書いている。また試験結果でも２回目で，全クラスとも少なからず得点をアップさせている。従って，この試みはかなり効果があったと言えよう。

１回目は全体を通して聞きながらストーリーの概略をつかみ，２回目ではパートごとに切って内容に関する設問に答えながら細部も理解していくという今回の形式についても，Ｑ４で約２／３の66.5%の者が肯定的に評価している。

またＱ１やＱ６では，今回の方法で英語学習や使用教材に興味や面白さを感じたと答えた者が，どちらも60%以上いた。記述式アンケートでも，教科書より楽しい，ストーリーが面白い，今までにない授業法が新鮮，聞き取れると楽しい，本物の英語に触れたようだ,等の感想が多く見られた。１．で述べたように，３年生になると英語に対する新鮮味や意欲を減退させる学生が増える傾向にあるが，授業方法や教材の選び方によっては，再度彼らの意欲を引き出すことも出来よう。

問題点としてまず上げられるのは，聞き取り理解の教材としては難しい，また長すぎると答えた学生が多かったことである。Ｑ２で，72.8%の者が聞いて理解するには難しいと答えている。記述式アンケートでも，話すスピードについていけない，とにかく難しい，２度聞くだけでは理解できない，と答えている。また，長いので疲れる，眠くなる，と書いた者も多い。一話を聞き終えるのに17分かかるいうのは，私たちも実施する前から懸念していた。本当は最初は５～10分程度のもので行いたかったが，話の面白さと英文の難易度の点で，適切なものが見つからなかった。面白さをある程度犠牲にしてでも，始めは短く易しいものから行って，徐々に長く難しいものに変えていくのも効果的なやり方だろう。

６．２　英文雑誌ＭＩＮＩ　ＷＯＲＬＤを利用したリーディングテスト

《肯定的な意見》

６名　新鮮なテスト形式だった
４名　記事が面白く興味を持って取り組める
３名　英語の文章が易しい
３名　教科書だけの試験より英語力がつく

《否定的な意見》

79名　英文が長い。解答時間が足りない。
33名　とにかく難しい
15名　やめてほしい
　（授業でやったことだけで出題）
13名　知らない単語が多くて大変
10名　30点の配点は高すぎる
９名　内容的にもっと面白いものを
５名　辞書を引くのが遅くて大変
４名　難しい単語は意味を書いておいてほしい

アンケート結果を見る限り，この実践に関しては非常に不評だった。Ｑ８では，85.3%の学生が難しいと答え，Ｑ９では，94.3%の学生が解答時間が足りないと答えている。英文の内容も，２回目の「世界の奇妙な法律の話」は半数近くが興味あると答えたが，１回目の「風力発電」はほとんどの者が興味を持てなかったことが，Ｑ10の結果からわかる。

またこの２回の試験の前に，平常の授業でこのような雑誌記事を取り上げて，速読の練習をすべきだったのかもしれない。だが,実用的なリーディング力につながるこのような実践に，学生がいかに慣れていないか，いかに苦手としているかが，改めて浮き彫りになった。テスト結果の分析で述べたように，２回目の方が点数はかなり上がったが，それでも初見の英文を一定時間内に自力で読みこなすことに，依然として困難さを持っていることは変わらないと言えよう。

６．３　レオナルド・ディカプリオに関する英文雑誌記事の読解授業

《肯定的な意見》

13名　教科書と違って興味を持って取り組めた
12名　最新の興味ある話題を英文で読めた
６名　内容に関する予備知識があり理解し易い
５名　映画『タイタニック』を見たくなった
４名　フレーズリーディングでよく理解できた
３名　教科書をやるより英文読解力がつく
３名　今後も継続してやってほしい

《否定的な意見》

25名　自分に興味のある記事でやってほしい
11名　英文雑誌の文に慣れていないので難しい
８名　教科書をもっと使ってほしい
４名　中途半端なままで終わった気がする
３名　日本語に訳さず理解するのは難しい

本来ならこのような試みを，年度当初から定期的にそして頻繁に行うべきだったかも知れない。そうすれば，6．2で述べた定期試験に組み入れたリーディングテストの出来も，もう少し良かっただろうし，あれほど不評を買うこともなかっただろう。

まずQ13では，約2／3の67%の者が，授業方法を肯定的にとらえている。教科書とは少々違う方法で読解を進めたというのは，4．3【3】で述べたフレーズ・リーディングのことを指す。教科書を読み進める時のようには細部の文法事項にこだわらず，文の流れに沿って話の大意をとらえていくのである。その方法で読んでみて，従来よりも英文が読みやすいと感じた学生が多かったと考えてもよいであろう。

Q11では，圧倒的多数ではないが過半数の学生が，興味を持って学習できたと答えている。いかにも勉強するという感じを持たせてしまう教科書を離れて，市販されている英文雑誌の記事を読むということは，それだけでも学生にとって新鮮だったかも知れない。また　扱う題材が，今世界中で人気のある若手映画俳優だったことも，英語学習にエンターテイメント的雰囲気を添えた可能性はある。いわゆる教育的内容の題材でなくとも，使われている英文自体は十分に教育的なものである。学習者が多少苦労してでも読みたくなる題材を与えることは，英語教育上，効果が非常に高いであろう。

テストでなく授業の中で行ったことも，この試みがかなり好評だった理由のひとつだろう。英文を読む時間はテスト時に比べればたっぷりあり，成績評価にも関係ない。しかも題材が題材であっただけに，学生の中には英文を通して話の内容を知る楽しみに浸った者もいたにちがいない。

7．ま と め

今回の私たちの一連の授業実践では，かなりの成果も得られたが，それと共に，今後さらに改善しなければならない問題点や課題も数多く発見された。

リーディング指導をリスニングとリンクさせた試みは，私たちにとって今回が初めてであった。ある程度の方法論は持ってこの実践に臨んだのだが，実際に授業を行ってみると，教える側教えられる側ともに不慣れな点があったのは否定できない。教える側としては，1年間の授業の流れをはっきり見通した上で，各実践を効率的に展開できたとは言えない点もあった。また教えられる側としても，経験したことのない様々な授業方法を次から次へと提示され，戸惑いを隠せない者も見られた。

しかし，私たちの試みが回を重ねるにつれて，興味をもって授業に積極的に関わってくる学生が増え，実践の効果も少しずつ現れ始めた。テストやアンケートの結果によっても，それは確認できる。実践期間がまだ短く，実施回数もまだ少ないので，際立ってリーディング力が向上したとは言えないだろうが，ある程度の方向付けはできたように思う。

今後も継続的に実施していけば，実用的なリーディング力の習得へ徐々に近づいていくだろう。私たちも今回の授業方法をさらに改善し発展させて，学生のリーディング力向上を図りたい。

使用教材

・MINI　WORLD　ミニワールド（発売）
構造システム（発行）
No.53　June－July 1997
No.57　Feb－Mar 1998
No.58　April－May 1998
・Sidney Sheldon THE MILLION DOLLAR LOTTERY
（シドニー・シェルダンの英語塾）
徳間書店　1996

参考文献

・金谷　憲　編「英語リーディング論」
河源社（発行），桐原書店（発売）1995
・谷口賢一郎「英語のニューリーディング」
大修館書店　1992

（平成10年11月30日受理）